

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24242022

研究課題名(和文) グローバル化時代のアジア・ネットワーク地域社会変容：ジャワ海港都市を事例として

研究課題名(英文) The Transformation of Local Societies based upon Asian-Networks in the Age of Modern Globalization: The Case of Java's Port-Cities

研究代表者

籠谷 直人 (Kagotani, Naoto)

京都大学・地球環境学堂・教授

研究者番号：70185734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 26,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、17世紀以降のグローバリゼーションの進展がローカルな地域社会に与えた影響を長期的かつ実証的に考察するものであった。具体的には、東南アジアのジャワ島における3つの海港都市(バタヴィア、スマラン、スラバヤ)を事例として、多言語の貴重史料を駆使しながら分析を行なった。その結果、それらジャワの海港都市が、近世以来、内陸部の社会と島外の世界経済とを結ぶアジアの結節点となり、そこに流入する人・モノ・カネ・情報を介して、独特の都市経済・社会を作り上げていった過程を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This research aims to show influences longitudinally and empirically that the progress of globalization after the 17th century had upon local societies in a region, with special reference to three port-cities (Batavia, Sumarang and Surabaya) on the island of Java in Southeast Asia. The study drew chiefly upon few multilingual archival sources. In this, we could find that the Java's port-cities had created specific urban economies and societies via inflows of people, commodities, monies and information while having become Asian network-hubs connecting and integrating the inland societies and the world economy since the early modern times.

研究分野：経済史

キーワード：グローバリゼーション 東洋史 日本史

1. 研究開始当初の背景

現在までのグローバル化の動きがいつから始まったのか諸説あるが、一つの有力な見解としては、およそ16世紀からの大航海時代に始まったとする見方がある。グローバル化により、各々のローカルな地域社会は人・モノ・カネ・情報の各面に置いてむすびつけられた。こうした数百年にわたるグローバル化が、ローカルな地域社会にいかなる社会的・文化的変容をいかに迫ったのかは、適切な事例地域を挙げ、実証的レベルから考察する必要があると、研究開始当初で考えた。

たとえば、近世期からのグローバル化ということでは、アンドレ・グンダー・フランクの『リオリエント』(原書1998年)がある。本書は、本来豊かさに富むアジア社会に西洋が参入してきたという見取り図を提示し、大航海時代という言葉が描き出す西洋中心主義的発想とは異なる斬新な世界史像を示した。とまれ、どのような見方をとるにせよ、近世期から確かにグローバル化の流れが進展し、現在まで加速度的に進んできたという見方は、改めて検証に値するのである。

しかし、上記のフランクを含め、近年のグローバル・ヒストリーと称するグローバル化の歴史的考察は、具体的かつ実証的分析を度外視して展開されてきたのも確かである。したがって、こうした旧来のグローバル・ヒストリー研究に対する批判的視点を維持しながら、それを質的に向上させていきたい。このモチベーションこそが、本共同研究の推進力であった。

本共同研究の背景には、研究代表者がこれまで近代日本のアジア史的連関性を明らかにすることに意を注いできたという理由もある。その主たる成果が、籠谷直人『アジア国際通商秩序と近代日本』(名古屋大学出版会、2000年)である。その後、華僑華人などのアジア・ネットワークが近代アジア経済の変容に与えた影響に関する研究会を立ち上げ、その成果の一部を、籠谷直人・脇村孝平編『帝国とアジア・ネットワーク 長期の19世紀』(世界思想社、2009年)に結実させた。

その他、本共同研究の着想を得る機会の一つとして、総合地球環境学研究所プロジェクト(H22~26年度)「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト」歴史班を主宰したことである。上述の理論的な着想のほか、これを実証的に検証可能にする豊富な史料の存在が確認でき、国内外に当該研究に熟達した研究者とも交流することができた。個人研究として、科学研究費基盤研究(C)(2008~2010年度)や京都大学学内資金(2011年度)によって、熱帯地域の近代経済社会の発展に中国・日本人商人が果たした役割を、制度・環境基盤の変化という視点から実証的に論究してきた。

本研究の研究分担者について付言すれば、とくに弘末雅士の先行研究『東南アジアの港市世界』(岩波書店、2004年)は、本共同研

究当初の背景として特筆に値する。東南アジアの港市を基軸に外部世界と後背地の内部世界との結節を描き出しており、その分析枠組みは本共同研究の主要モデルとなっている。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、本共同研究は、17世紀以降のグローバル化の進展がローカルな地域社会に与えた影響を長期的かつ実証的に考察し、具体的には東南アジアのジャワ島における3つの海港都市(バタヴィア(現ジャカルタ)、スマラン、スラバヤ)を事例として分析を行なうものである。海港都市とは、内陸部の社会と島外の世界経済とを結ぶ結節点であり、そこに流入する人・モノ・カネ・情報を介して、一体化する世界経済と島内社会とが相互に影響しあい、独特の都市経済・社会を有する「場」であった。上記のいずれのジャワ都市は、史料的に17世紀以降の歴史を追跡することが十分に可能であり、実証的にグローバル化の問題を考察するのにふさわしい研究対象として考えられる。

かくして、本共同研究の最終目標は、ジャワの海港都市の詳細な分析を通して、旧来のグローバル・ヒストリー研究が陥りがちな実証性の欠如を乗り越え、新たな世界史像を提供することなのである。

3. 研究の方法

本共同研究は、17世紀から20世紀前半までのジャワ海港都市(バタヴィア、スマラン、スラバヤ)を考察の対象とし、(1)都市空間史分析(民族別人口構成の変遷、民族別居住区の発展、郊外の開発)、(2)経済・商業史分析(出入船舶・貿易の動向、商業ネットワーク組織の変遷)、(3)社会史的分析(民族間相互に横たわる社会問題、結婚や民事上の紛争等のマルチ・エスニック社会における諸問題の解決方法システムの変化)、(4)バタヴィア在住中国人社会分析(当該集団内部での組織構造ならびに紛争解決手段の変化)、(5)バタヴィア在住中国人社会のアジア内ネットワーク分析(当該集団の国際的なネットワークの解明)を行なう。

上記のとおりジャワを事例にすることから、オランダ語史料、マレー語史料、漢文史料、日本語史料といった多言語の史料を利用する。この手法により、多くの歴史情報入手し、多方面から分析することが可能となる。

第一に、オランダ国立文書館ならびにインドネシア国立公文書館に所蔵されている『オランダ東インド会社文書』、『オランダ植民地省文書』、『オランダ東インド総督府文書』というオランダ語文書が挙げられる。400年以上にわたるオランダ支配の産物で、綿密な記録が残されており、第一級の文書群である。

第二に、邦語史料として、台湾中央研究院および日本国内(個人蔵)で保有されている『堤林数衛関係文書』を利用する。堤林数衛

(1873年～1938年)は、日本人商人としてジャワで活動した先駆者であり、太平洋戦争以前の日本人のジャワ経済活動について詳細な記録を残している。堤林文書を分析することで、日本を含めたグローバルな視点からジャワ海港都市史を考察することが可能となる。

さらに、台湾中央研究院で整理・公開されたばかりの『旧台湾銀行関係資料』も利用する。台湾銀行は、1899年、日本統治下の台湾の開発金融を目的に設立された特殊銀行であったが、その支店営業を展開させた華南や東南アジア(フィリピン、仏領インドシナ、マレー半島、シンガポール、蘭領東インド)の関連資料も相当数が残存している。旧台湾銀行調査部・調査課が作成した「南洋」各地の日本人や華僑・華人に関する調査報告書は、本共同研究の関心からも非常に有益な資料である。

他方、バタヴィア中国人社会の解明のために、おもに『バタヴィア中国人公館文書』、そのなかの特に裁判記録である『公案簿』と、華人がのこした「バタヴィア開発史」である『開吧歴代史紀』の分析を中心に行なう。この極めて貴重な華僑社会一括文書の分析は、バタヴィア華僑華人史研究のみならず、華僑華人史一般の研究水準を大幅に向上させるものとなる。

上記の諸文献に基づいて研究を進めるほか、都市空間構造の把握のために、インドネシアをはじめ、長崎・平戸、台湾、廈門・金門・南安・泉州等での現地フィールド調査も行なう。さらに、国内学会・研究会のみならず、国際ワークショップや国際学会大会へ積極的に参加し、多くの国内外研究者との相互交流によって研究内容の質的向上を図り、有機的な国際研究協力体制を敷いて共同研究を展開させる。

4. 研究成果

本共同研究の主要な研究成果として、台湾中央研究院台湾史研究所との共同研究報告書がある。第一に、籠谷直人(編)『堤林数衛関係文書選輯』(謝国興、鍾淑敏、王麗蕉との共著)、台湾中央研究院台湾史研究所、415p、2014年である。日本統治時代の日本人にあって、台湾を経由して南洋での経営に赴いた堤林数衛に注目し、主に南洋での商業活動を克明に記した文字資料と写真資料を紹介・解説した。

さらにもう一冊、籠谷直人(編)『茶苦來山人の逸話』(鍾淑敏ほか共編)、台湾中央研究院台湾史研究所、537p、2015年を刊行した。そのなかでは、日本占領下の台湾台北市で「辻利茶舗」というお茶屋を営んだ三好徳三郎に注目し、その貴重な一次資料を紹介・分析した。

本共同研究は、台湾と東南アジアに残る「在外日本関係資料の調査と研究」プロジェクト(人間文化機構)にも参画・後援し、そ

の成果として籠谷直人(編)『第2・3回 在台湾・日本関係資料ワークショップ報告書』(人文科学研究所、2015年)をまとめた。

本共同研究の最終成果報告書として、籠谷直人(編)『グローバル化時代のアジア・ネットワーク地域社会変容 ジャワ海港都市を中心に』を世界思想社から刊行する予定である。

上記の報告書以外には、さまざまな国際会議を開催し、多くの知見を得た; 京都大学でのアジア植民地都市ワークショップ「Jakarta's Past: Space, Ethnicity and Urban Development」(2013年4月); 厦門大学での国際共同研究会「Seminar on East Asian maritime History: Asian International Trade Order and Chinese Merchants」(2013年12月); インドネシア大学で国際ワークショップ「Urban Development and Social Integration: Long Term Perspective」(2014年11月); 京都大学で台湾銀行資料公開記念ワークショップ「台湾銀行資料データベース 台湾銀行所蔵日治時期文書」(2015年3月); 台湾中央研究院で国際ワークショップ「戦前期日本の南洋関与と台湾・南洋」(2016年2月)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

植村泰夫「植民地期タンジョンプリオク港の建設と拡大に関する覚書」『広島東洋史学報』、査読有、20巻、1-18頁、2015年。

弘末雅士「東南アジア世界における奴隷」『歴史と地理』、査読無、通巻684、52-55頁、2015年。

松田浩子「新井健一郎著『首都をつくるジャカルタ創造の50年』」『史学雑誌』、査読有、123巻2号、124-125頁、2014年。

島田竜登「17・18世紀におけるアユッタヤ朝のアジア域内貿易とオランダ東インド会社『スレイマーンの船』との関連で」『史朋』、査読有、47巻、1-16頁、2014年。

陳来幸「李正熙著『朝鮮華僑と近代東アジア』」『東洋史研究』、査読有、72巻2号、167-173頁、2013年。

島田竜登「「海域アジアにおける日本銅とオランダ東インド会社」竹田和夫編『歴史のなかの金・銀・銅 鉱山文化の所産』」『アジア遊学』、査読無、166巻、48-58頁、2013年。

Ryuto Shimada, "The Long-term pattern of Maritime Trade in Java from the Late Eighteenth Century to the Mid-Nineteenth Century", *Southeast Asian Studies*, 査読有, 2-3 (2013), pp. 475-497

Ryuto Shimada, "Economic Links with Ayutthaya: Changes in Networks between Japan, China and Siam in the Early Modern Period", *Itinerario: International Jour-*

nal on the History of European Expansion and Global Interaction, 査読有, 37-3 (2013), pp. 92-104.

松田浩子「オランダ東インド会社によるバタヴィアの水路網と空間形成」『日本建築学会計画系論文集』、査読有、78 巻 685 号、705-714 頁、2013 年。

植村泰夫「戦前期日本船の蘭印進出をめくって」『広島東洋史学報』、査読有、17 号、21-71 頁、2012 年。

島田竜登「近世海域アジア貿易と日本銀オランダ東インド会社を中心に」『史学研究』、査読無、277 号、59-73 頁、2012 年。

島田竜登「近世植民都市バタヴィアの奴隷に関する覚書」『文化交流研究』、査読無、26 巻、33-42 頁、2012 年。

Ryuto Shimada, "Book Review of Defining Engagement: Japan and global Contexts, 1640-1868 By Robert I. Hellyer), *Monumenta Nipponica*, 査読無, 67-2 (2012), pp. 341-343.

[学会発表](計 44 件)

籠谷直人「堤林数衛翁とその時代 - 『堤林数衛関係文書選輯』の提示する論点について」、「戦前期日本の南方関与と台湾・南洋」ワークショップ、2016 年 2 月 18 日、台北、台湾。

陳来幸「中國近代總商會制度：息息相連的華人世界會」海外華商網絡與華商組織”國際學術研討會、7th November 2015, Wuhan, China.

Naoto Kagotani, "Introduction and Opening Remarks (Complexity of Innovation Colonial Milieu: Socio-Economic Transformation in the Colonial Ports and their Hinterlands in Modern Asia, 1850s-1940s)", 9th August 2015, Kyoto, Japan.

Naoto Kagotani, "Introduction (Special Economic Zone: Treaty Ports and Port Cities of Maritime Asia, 1842-1942)", 17th World Economic Congress, 6th August 2015, Kyoto, Japan.

Ryuichi Tanigawa, "Lighthouse Construction in the Early 20th Century on the Korean Peninsula: Role of Japan and Britain", 17th World Economic Congress, 6th August 2015, Kyoto, Japan.

Tomo Ichikawa, "Infectious Disease Prevention and Foreign Community in Japanese Treaty Ports", 17th World Economic Congress, 6th August 2015, Kyoto, Japan.

Ryota Ishikawa, "Distribution of Goods centred in Open Ports of the Korean Peninsula: Incorporation and Exclusion", 17th World Economic Congress, 6th August 2015, Kyoto, Japan.

Ryuto Shimada, "Expansion of the Dutch Colonial City: Spatial Analysis of Ethnicity and Land-Use of Batavia, 1619-1930",

Joint Conference of ANGIS and CRMA, 6th January 2015, Bangkok, Thailand.

Tomoko Shiroshima, "Formation of Logistics Clusters in the Age of Global Trade Expansion: The Cases in Asia from the 19th to the 20th Century", 17th World Economic Congress, 5th August 2015, Kyoto, Japan.

陳来幸「在日台灣人與戰後日本華僑社會的左傾現象」、國立仁川大學中國學術院國際學術大會、30th January 2015, Incheon, Korea.

Naoto Kagotani, "Japan's Commercial Penetration in Southeast Asia and the Cotton Trade Negotiations in the 1930s: Maintaining Relations between Japan and the Dutch East Indies", Urban Development and Social Integration: Long Term Perspectives, 24th November 2014, Jakarta, Indonesia.

Yasuo Uemura, "Trade and Shipping in Batavia in the Late Colonial Era", Urban Development and Social Integration: Long Term Perspectives, 24th November 2014, Jakarta, Indonesia.

Ryuto Shimada, "Banka's Tin Production and its Export Trade in the Eighteenth Century from an Asian Perspective", Workshop: Urban Development and Social Long Term Perspective, 24th November 2014, Jakarta, Indonesia.

陳来幸「中華總商會の研究から見えてくるもの」、華中師範大学近代史研究所連続講演、21th November 2014, Wuhan, China.

陳来幸「20 世紀初頭における客家系華商の台頭とアジア交易ネットワーク」、中国經濟経営学会、2014 年 11 月 9 日、東京、日本。

島田竜登「近世バタヴィアとアジア船 アジア域内貿易一側面」、2014 年度東洋史研究会大会、2014 年 11 月 3 日、京都、日本。

Ryuto Shimada, "Maritime Asia Integrated into the World: A Case Study of the Japanese Copper Trade by the Dutch East India Company", Workshop: East Asia and Global History, 22nd-23rd October 2014, Princeton, USA.

島田竜登「長崎出島のアジア人『奴隷』とイスラーム」、比較文明学会第 32 回大会、2014 年 10 月 11 日、福岡、日本。

島田竜登「近世バタヴィアのモール人について」、第 269 回北海道大学東洋史談話会シンポジウム、2014 年 9 月 21 日、札幌、日本。

陳来幸「留日客家華僑在亞洲商業網絡上的定位和作用」、中央研究院台湾史研究所植民地研究群、1st September 2014, Taipei, Taiwan.

②島田竜登「長崎出島のアジア人『奴隷』とイスラーム」、第 52 回比較文明学会九州支部研究会、2014 年 7 月 26 日、福岡、日本。

②籠谷直人「戦前の日本製綿布・人絹布のインド市場での受容」、社会經濟史学第 83 回全国大会パネル「20 世紀前半におけるインド社

会経済の変容と日印貿易関係」, 2014年5月25日、京都、日本。

②③ Laizing Chen, “Disaster Recovery and Gender in Taiwan: Foreign Bridges, Indigenous Women, Business Incubation for Women”, 国際社会学会、2014年7月18日、横浜、日本。

②④ Naoto Kagotani, “Opening the Kobe Port to Foreign Trade in Late 19th Century’s Japan”, Seminar on East Asian Maritime History: Asian International Trade Order and Chinese Merchants, 25th December 2013, Xiamen, China.

②⑤ Ryuto Shimada, “Chinese Junk Trade between Japan and Southeast Asia in the Early Modern Period”, Seminar on East Asian Maritime History: Asian International Trade Order and Chinese Merchants, 25th December 2013, Xiamen, China.

②⑥ 籠谷直人「植民地期台湾の日本関係資料」, PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013, NIHU’s Activity on Research and Resource Sharing of Humanities, 12th December 2013, Kyoto, Japan.

②⑦ 籠谷直人「19世紀の東アジア経済」, 東アジア地域研究会(2013年度大会), 2013年11月30日、神戸、日本。

②⑧ 島田竜登「『書評: 金澤周作編著『海のイギリス史: 闘争と共生の世界史』(昭和堂、2013年7月刊行)』, 大阪経済大学日本経済史研究所第73回経済史研究会、2013年11月30日、大阪、日本。

②⑨ Ryuto Shimada, “Iranian Settlers in Ayutthaya and the Dutch East India Company”, The 8th International Convention of Asia Scholars, 24th June 2013, Macau, China.

③⑩ 陳来幸「二戦後日本僑報中の台湾與台湾人」, 2013年ピン南文化国際學術研討會「東亞國家與ピン南地方」, 2013年10月27日、金門島、台湾。

③⑪ Hiroko Matsuda, “Floods and Change of the Water Management in Batavia under the Dutch Rule: World History for Current Issues, Environmental Issues, Globalization and Conflicts”, 6th October 2013, Tokyo, Japan.

③⑫ Ryuto Shimada, “Batavia as World Trade Centre? : A Key Trading Port in Indonesian, Asian and Global Perspectives, 1619-1799, Maritime East Asia in the 16th-18th Centuries: Sources, Archives, Researches: Present Results and Future Perspectives”, 2nd October 2013, Napoli, Italy.

③⑬ Ryuto Shimada, “Hirado and beyond: British Trade with Japan in the seventeenth Century”, International Conference: Japan and Britain, 1613: Parallels and Exchanges, 20th September 2013, London, UK.

③⑭ 陳来幸「從一些家族史看廣東華僑與中日關係」, 「廣東華僑與中外關係」國際シンポジウム、2013年9月15日、スワトウ、中国。

③⑮ Ryuto Shimada, “The VOC Trade of Copper from Japan”. Symposium:

Boekhouder-generaal Batavia: ontsluiting van de bronnen van het goederenvervoer van de VOC in de achttiende eeuw, 6th September 2013, The Hague, The Netherlands.

③⑯ 島田竜登「17世紀末アユッタヤー朝の国際貿易 イラン使節来朝の経済的背景」, 第264回北海道大学東洋史談話会、2013年10月18日、札幌、日本。

③⑰ Ryuto Shimada, “Global Trade in Ayutthaya during Early Modern Period”, Symposium Muslim in Thai History, 23rd November 2013, Bangkok, Thailand.

③⑱ Hiroko Matsuda, “Floods and Urban Campungs in Batavia, 1853-1940, Jakarta’s Past: Space, Ethnicity and Urban Development”, 3rd April 2013, Kyoto, Japan.

③⑲ Naoto Kagotani, “Opening the Kobe Port to Foreign Trade in Late 19th Century’s Japan”, Modern China’s Internationalization and its Legacies, 11th January 2013, Bristol, UK.

④⑩ 陳来幸「20世紀初期留日華商在口岸貿易的競争與分工」, 中央研究院海洋史研究プロジェクト主催「海峡史研究ワークショップ(二) 海港と華僑華人」, 2012年9月28日、台北、台湾。

④⑪ Naoto Kagotani, “Merchants’ Communities in Early Modern Asia: Toward a comparative Institutional Perspective: Introduction”, The XVIth World Economic History Congress, 12th July 2012, Stellenbosch, South Africa.

④⑫ Ryuto Shimada, “Batavia and its Ommelanden, 1619-1930”, The XVIth World Economic History Congress, 12th July 2012, Stellenbosch, South Africa.

④⑬ 島田竜登「近世ユーラシア海上貿易とオランダ東インド会社」『九州・シルクロード協会2012年度第2回交流会』(招待講演), 2012年6月30日、福岡、日本。

④⑭ Ryuto Shimada, “Batavia: Multi-ethnic Society in the Dutch colonial City in the Early Modern Period”, The 2nd Congress of the Asian Association of World Historians, 28th April 2012, Seoul, Korea.

〔図書〕(計26件)

籠谷直人(編)『台湾銀行資料データベース臺灣銀行所蔵日治時期文書公開記念ワークショップ報告書』, 人文科学研究所、2016年、69頁。

島田竜登「近世バタヴィアのモール人」守川知子編『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会、2016年、249-274頁。

籠谷直人(編)『茶苦來山人の逸話』(鍾淑

敏ほか共編) 台湾中央研究院台湾史研究所、2015年、434頁。

籠谷直人(編)『第2・3回 在台湾・日本関係資料ワークショップ報告書』、人文科学研究所、2015年、537頁。

陳来幸『近代中国の総商会制度』京都大学学術出版社、2015年、309頁。

陳来幸「華僑の経済」「華僑の職業」吳宏明/高橋晋一編『南京町と神戸』松籟社、2015年、205-212・213-220頁。

弘末雅士「ヨーロッパ人の植民地支配と東南アジアの海賊」東洋文庫編『東インド会社とアジアの海賊』勉誠出版、2015年、107-135頁。

弘末雅士「近代インドネシアにおける民族主義の展開と「混淆婚」ニヤイと欧亜混血者の陰」水井万里子ほか編『女性から描く世界史 17~20世紀への新しいアプローチ』勉誠出版、2015年、18-35頁。

Ryuto Shimada, "Hinterlands and Port Cities in Southeast Asia's Economic Development in the Eighteenth Century: The Case of Tin Production and its Export Trade" in Tsukasa Mizushima, George Bryan Souza and Dennis O. Flynn (eds.), *Hinterlands and Commodities: Place, Space, Time and the Political Economic Development of Asia over the Long Eighteenth Century*, Brill Academic Publishers, 2015, pp.197-214.

Ryuto Shimada, "Import Trade in Precious Metals and the Economy of Japan, 1763-c.1850", in Jane Kate Leonard and Ulrich Theobald (eds.), *Money in Asia (1200-1900): Small Currencies in Social and Political Contexts*, Brill Academic Publishers, 2015, pp.249-274.

島田竜登ほか(編)『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会、2015年、390頁。

籠谷直人(編)『堤林数衛関係文書選輯』(謝国興、鍾淑敏、王麗蕉との共著)台湾中央研究院台湾史研究所、2014年、415頁。

籠谷直人「西原借款 東アジア経済史から見た大戦」山室信一ほか編『現代の起点第一次世界大戦 第1巻』岩波書店、2014年、201-210頁。

陳来幸「從一些家族史看広東華僑与中日關係」広東華僑史編纂委員会編『広東華僑与中外關係』、2014年、77-88頁。

陳来幸「二戰後日本僑報中的臺灣和留日臺灣人」江柏イ主編『2013 品南文化國際學術研討會成果冊』金門縣文化局、2014年、341-355頁。

陳来幸「從一些家族史看広東華僑与中日關係」張応龍編『広東華僑与中外關係』、広東人民出版社、2014年、77-88頁。

弘末雅士『人食いの社会史 カンニバリズムの語りと異文化共存』山川出版社、2014年、227頁。

島田竜登「グローバル時代の歴史学 グロ

ーバル・ヒストリーと未来をみつめる歴史研究」比較文明学会 30周年記念出版編集委員会『文明の未来 いま、あらためて比較文明学の視点から』東海大学出版部、2014年、148-162頁。

島田竜登「「長崎」再考 海域アジアと近世日本」熊野純彦・佐藤健二編『人文知3境界と交流』東京大学出版会、2014年、99-113頁。

陳来幸「開港上海における貿易構造の変化と華商 砂糖と海産物を中心に」森時彦編『長江流域社会の歴史景観』京都大学人文科学研究所、2013年、3-24頁。

②陳来幸「近代日本と華僑」吉原和夫等編『人の移動事典』丸善出版、2013年、14-15頁。

②陳来幸「移民と華僑」岡本隆司編『中国经济史』名古屋大学出版会、2013年、232-234頁。

③弘末雅士(編)「越境者の世界史 奴隷・移住者・混血者」春風社、2013年、227頁。

④島田竜登「近世ジャワ砂糖生産の世界史的位相」秋田茂編『アジアからみたグローバルヒストリー 「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』ミネルヴァ書房、2013年、148-171頁。

⑤籠谷直人「帝国と商人ネットワーク」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望 社会経済史学会創立80周年記念』有斐閣、2012年、276-292頁。

⑥陳来幸「「池袋チャイナタウン」構想に「待った」日本型共生に向けて」園田重人編『日中関係史 1972-2012 III 社会・文化』東京大学出版会、2012年、333-365頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

籠谷 直人 (KAGOTANI, Naoto)

京都大学・地球環境学堂・教授

研究者番号: 70185734

(2) 研究分担者

陳 来幸 (CHEN, Laixing)

兵庫県立大学・国際経済学科・教授

研究者番号: 00227357

植村 泰夫 (UEMURA, Yasuo)

広島大学・大学院文学研究科・名誉教授

研究者番号: 40127056

岩井 茂樹 (IWAI, Shigeki)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号: 40167276

弘末 雅士 (HIROSUE, Masashi)

立教大学・文学部・教授、

研究者番号: 40208872

城山 智子 (SHIROYAMA, Tomoko)

東京大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号: 60281763

島田 竜登 (SHIMADA, Ryuto)

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号: 80435106